意見文を書く

- 1 指導のねらい(身に付けさせたい力)
 - ①日常の言語生活に関心を持ち、よりよい向上に役立てることができる。
 - ②複数の文章を比較し、評価・批評しながら読むことができる。
 - ③自分の考えを、その根拠を明らかにしながら書くことができる。

2 指導の実際

学習活動	指導上の留意点と評価
(1)新聞の投書欄に載せられていた文章【A】を読む。(2)読後の感想をグループで交流し合う。	・よく似た経験や、日常の携帯電話の使い方などについて振り返らせる。 評 進んで学習活動に取り組もうとしているか。
(3) M子さんの投書に対する石田さんの書いた意見文【B】と書き直した意見文【C】とを読み比べ、石田さんがどの部分をなぜ書き改めたかについて発表し合う。	 ・次の5点に気付かせたい。 ・漢字の間違いが2箇所 ・文末に「…思う」という表現が多い ・「僕は」という表現が多い ・接続語などが少ないので、文と文との関係が分かりにくい ・一段落で書かれていて、内容ごとのまとまりに分けて構成していない 評【B】と【C】を比較しながら評価・批評しているか。
(4)新聞の投書欄に載せられていた文章【A】 に対して、自分なりの意見を、条件に従っ て書きまとめる。	・石田さんが書き直した意見文【C】の書き 方を参考にしながら、文字数や段落構成の 条件を確かめ、自分の意見を書かせる。文 字数については、生徒の実態に合わせて調 整するとよい。 評 条件に従って書きまとめているか。
(5) できあがった意見文を交流し合う。	・互いに回し読みするのもよい。・よく書けているものを全体で取り上げ、評価し合う。評よりよい言語生活に対する認識を深めているか。
(6) 指導者の話を聞く。	・実際の新聞の投書欄から関心のある記事を 見つけさせ、それに対する意見文を書かせ る活動をこのあと展開するとよい。

新聞の投書欄に載せられていた文章【A】

なせん。

聞き合いました。

き合いました。おいしい料理でした。子どもたちとのはずむ舌づつみを打ちながら、最近学校であった面白い出来事などオーダーした料理が運ばれてきました。子どもたちと一緒に料

スパイスのひとつになったことは

間違いあり

た料理が運ばれてきました。子ども

大津市 M子(四六歳)

 オーダーした料理が運ばれてくるまで、家族でとりとめもない
 オーダーした料理が運ばれてくるまで、家族でとりとめもない ました。 先日、 [°] 休日の夕食時ということもあって、店内は大変にぎやひさしぶりに家族でファミリーレストランへ食事に出か

M子	さんのよ	ような経!	験はないた	ごろうか 。	振り返っ	てみよう	0	
								 _
								 _
								 _

▼ M子さんの投書に対する石田さんの書いた意見文【B】

思う。 7 友だちと約束をしたり、さまざまな場面でよく使って のにすぎないのではないかと思う。 子さんの見たこの女子学生の姿は、 っていようがいまいが、 コミュニケーションを取り会っていないと思う。僕は ためによく使うと思う。でも、 いると思う。メール機能はとても便利で、 たちのコミュニケーションに対して心配をしていると めていると思う。 いるだろうし、僕たちも、学校では、 つ若者は増え、 Μ 四人の若者たちも、 子さんは、 僕は、そんな心配はいらないと思う。 ニケーションを充実させ、 ファミリー 出かけた先から家に連絡をとっ ある場面では会話をはずませ 授業や部活動などで友だちと レストランで見かけた若 僕は、 僕は、 得異な一 仲間とのきずなを 携帯電話だけで 携帯電話を持 料金も安い 携帯電話 場面 僕は、 た

▼ 石田さんが書き直した意見文【C】

まな場面でよく使っている。

その中でも、

ル

ら家に連絡をとったり友だちと約束をしたり、

携帯電話を持つ若者は増え、

出

かけ

た

先

さまざ

すぎないのではないかと思うからだ。

確かに、

んの見たこの女子学生の姿は、

特異

な一

場面のも

0)

はとても便利で、料金も安いためによく使う。

たちの

コミュニケーションに対して心配をしている。

M子さんは、

ファミリー

レストランで見かけ

た若

しかし、

そんな心配はいらない。

なぜなら、

M 子 さ

めているのだ。 コミュニケーションを充実させ、 て \mathcal{O} ンを取り合っているわけではない。 . るだろうし、 四人の若者たちも、 いようがいまいが、 だからといって、 僕たちも、 携帯電話だけでコミュニケー 授業や部活動などで友だちとの ある場面では会話をはずませて 学校では、 仲間とのきずなを深 実際のところ、 携帯電話を持 シ

					:
	 	 	 		:
	 	 	 		:
	 	 	 		•
	 	 	 		;
	 	 	 		;
	 	 	 		;
	 	 	 		•
 60字					

条件 ・次のような二段落構成の文章にすること。

- 一段落目は、M子さんが述べているどの部分について意見を述べるかをはっきりさせること。
 - (例) M子さんは、○○について、○○と述べている。M子さんは、○○と言っている。 など
- 二段落目は、一段落目で取り上げたことについてあなたが下した判断・考え、その根拠などを書くこと。
- ・120字以上、160字以内で書くこと。

間

い次石

には田

答、さ

えそん

なのの

さ投学

い書級

ーで

Αは

と新

授の

業投

の書

よ欄が

うに

す載

ーせ

ВБ

これ

そて

った

石文

田章

さに

ん対

のし

意て

人【C】【D】 心見文を書く

くと

, \

す。これ す

れを

読て

で、ま

L

1

す

を

 λ

あ

と

0)

で

見 文意

1 L

聞

新 聞 の 投 書 欄ん 12 載 せ ら れ て い た 文 章

授 業 ഗ ょ う す В

中

西

先

口

しさ書ら前

でねっ動章

°てに一は

自取A

分り**一**新

の組に聞

意み対の

見まし投

をして書

書た意欄

こ。見に

うみ文載

となをせ

若 者 の \Box ュ ケ I シ 3 ン は だ 津 い 市 じ ょ М う 子(四 ぶ 六

変出 日り のに 夕家 食族 時で とフ いア うミ こリ ا ع もレ あス っト てラ `` 店へ 内食 は事 大に

たよさ見

いてでいうん文今てんくれ

うみはとにの一目い、とて

はし石いそ見C授しんうた授 あょ田まの文ン業たば活文業

取

ŋ をない、確

みかげさ

んながっながの

でのら書

かなみた

めるな意

確に

`\\\

す改がを

善さ

点ら

`意**一**のまがいい

は、

石 上田

とみ

あょ田

めりますか?ょう。ここは、田さんの意見

こう

L

たC

5 +

いを

ょ

文

、思

たと楽ュ前そす指と彼一な とと事料才で前てあり媒てい連携こ返し二にれ。をも女角いオにか先 はのな理|すに少る、介いあ絡帯と信んケいな彼動一たに話|ぎけ日 間はどにダかはしと孤とくりが電がをでしるら女か言ち座をダやま : `かい独すもま取話あしいシ仲話たしももつし」かしひ あわうにるのせりやりなるョ間しちてしオててしでたさ ないのおネでん合そまいのンでたはいやしい盛たす。し たそはそッは。えのすとでをはい気るベダるり料のういわトあしるメニー優な話ののらー女上理 生なかれワりか大一彼間よ先く題合でずし の気がたーまし変ル女はうさ `でうすにた学っ運 声持なりクせ、優機たずかせ電い仲。、料生てばをちもしにんそれ能なれ、て波つ間ど携理四いれ をらもしにんてれ能され (液の間と携理P)れ 待にのてつ。れたなりに以いのぱ同う帯を欠たて ここ、 れになるに如いのは同う帯を人たてっなで、なまだコどそさ前、る向い士や電待のでくてっし携がしけミはなっ、 のこのでら話っ変すいなる。 なってょ帯ってがュ の は食メのて姿すするままで、 、のこのでは食ができまれた。 でし うよ 彼いす来ををよ 女る。たし開う で な ょ う ŋ た相とのていで ち手こでいてす う か ル 出 な にはとろしる盛が、 L 話 きち そのがよよん、れコ目ううに四 を 聞 ん 。で親人 をミの 11 佐

るきう電て よニい 仲まか話い若りケつ °がな者よし 間し がた彼手いたいシも い °女放とち人ョど るあたせ不が間ンこ んなちな安携関ツで じたをいに帯係しも やの見状感電をル相 な目て況じ話築に手 中

西

先

生

いのいにたをい違と

子がが た族 しで はと し店 た。のも Ш 本

中 西 先 さ 生 ん

た 方漢 が字 よの い間 と違 思い いが ま二 す箇 所 あ る \mathcal{O} で

直

L

ん かよ ? < 気 が 付 き ま L た ね 他 に あ ŋ ま

せ

W でで 文 。文末 末に 表「 現: を思 いう ろ _ いと ろい 工う 夫表 す現 るが と多 よい いの

藤

さ

らた現多分 多 `を用がそ 用二見せ思う 直ずっで なはし、たす て佐とね 方とみ藤い。 がいてさう意 いうはん「見 い表どの思文 で現う言うな すもでうしの 、しよとで [°]同よういす じうにうか 理か文表ら 由。末現 かま表は自

0

僕

L

ね

は 11 き 直 L て 4 ま す

生 た まい私 ずとか 、思ら いは ま す さ 0 5 参 L のこと てくださ を ご指 ね。

たた出緒 石 田

さ ん

中 西 先

こち来に

違ずを舌し

いか聞づし

あ会きつた

まがいを理

せ、ま打が

んそしち運

のたなば

事おらて

スし最ま

パい近し

イ料学た

ス理校。

のでで子

ひしあど

とたっも

に子面ち

など白と

っもいー

0

。 たた

のい

°がれ

`き

話合み料

こ の たいる コミ 友 持 の子 7 ゔ゙゙ゔ。 だだ て に 1 0 さ Μ たちと約 る ユ に لح 兀 す λ 0) 子 思う。 ニケー よく ぎ よう 人 の だろうし の僕 さ ミュ 見はたい な 約束をしたり、. は増え、出かけ ないのではない たこ 若 使 は いま 一者た ニケ ションを取 うと思う。 メー そん ショ \mathcal{O} フ な心 僕 5] ア 11 ル 女 たたち ŧ, ンを 機 が、 子 能 けい学 配 彐 IJ でも、僕は、 授業やある場 充実さ た先かと思 り会って さまざまな 生は \mathcal{O} 11 姿 5 対 ス 僕は、 せ 部 校面 5 う。 な L 1 いな 活 で では 家 て 7 ラ は、 利 場 に لح 動 僕 得 ン がと思う。 携帯電話だ 思う。 1間との 会話 は、 で、 面 などで友だち 連 異 配 で な一 絡 でよ を 見 帯 料 L を を 携 か きずな とっ 金も は < 場 僕 電 帯 7 け だけ安 使 ずま 話 は、 電 面 11 た 僕 け安った でいてり を た話 る 若 \mathcal{O} は、 と持 せ を も M と 者

は

すん た のしち 家 確 ぎ かな 見 かの 子 たこの にい、の コミュニケーションに対して心配をしている 0) では そ は 女子 λ な な フ · 学 生 配 いかと思うからだ。 アミリー 0) は 姿は、特異な一 いらない。なぜなら、 レスト ランで え、 場面 見 出 カュ か の も け け さまざ M た 子 若 0) さ に

て いのン ま 5 \otimes とても を だ 取 か な 場 る 兀 だろうし に 人 いらといって、いも便利で、料象 ニケーシ り合 う \mathcal{O} 面 連 の若者たちも、なり合っているわけ 絡 でよく使 (別で、十二)でよく使っている。その中で、絡をとったり友だちと約束を絡をとったり 11 ま 6いが、授業 僕たちも、 彐 料金も安いためによく ンを 携 ある場 帯電 充 実業、る場合を対象 話 が一般では ない。 だけ せ でコミュニ 仲 会実話際 間 でも、メ をしたり、 などで友だち 携話帯を とのきずな 、使う。 帯電は のところ、 ケ] 話 ず ま] を ル をと持っ せて 機 ۲ 能

き 出授 なで、 山い 。 本 さ λ が 指 摘 L た 漢 字 \mathcal{O} 間 違 1 は、 ど 0 筃 所 で す カゝ 0 石 田 さ λ \mathcal{O} 書 V > た ?意見 文 【C】 から、 箇 所 抜

中石 西田 先さ 生ん 上からどの,
んは、授業 ような な摘 |指摘を受けたのでしょうか。授業での**佐藤さんの述べ方にならって、二つ**書きなさられたことをもとに、意見文【C】を、意見文【D】のように書き直しました。

Ξ Μ 子 さ $\bar{\lambda}$ \mathcal{O} 投 書 A に 対して、 あ なたは、 どう 考 え ま す か。 次 0 条件に 合 わ せ て、 あ な た 0) 意 見 を 書 き なさ

次 0) ような二 段 落 構 成 0) 文 章 に すること。

段 落 目 は M 子さんが述 MMZ 子さんは、○○と言っている。 など子さんは、○○について、○○と述べている。 なべているどの部分について意見を述べるかをはっき りさせること。

段 目 は 段 落 目 で 取 ŋ 上 げたことに 0 いてあ なたが 下 した 判 断 考え、 そ 0) 根 拠 などを書くこと。

百二十字以 上、 百 六十字以内で書くこと。

		Ξ	=	
				解答用紙
				794
				投
				「投書に対する意見文」
				年
				組
				番
				氏名
160字	120字			

出 題 の ね 5

- 複 数 の文章を比較し、 価・ 批 評しながら読むことができるかどうかをみる。
- 資料に表れ ている工夫を自 分の表現に役立てることができるかどうかをみる
- 根 拠 を明 5 か にし ながら、 自 分 の 考えを書きまとめることができるかどうかをみる。

解答例

得 異

取り)会って

【 C 】 と【 D 】とをていねい に対照するとよい。

(例)一段落で書かれているので、

例)文と文との関係が分かりにくいので、 接続語などを使ってそのつながりをはっきりさせるとよい。

内容ごとのまとまりに分け、

改行し、

段落を構成するとよい。

ならって二つ書いているものを正答とする。佐藤さんの述べ方は、「・・・ので、・・するとよい。」という述べ方になっているので、

これに

例 述な ∀状況にあるといる子さんは、若老 者 11 いうのはいかがなりたちが携帯電気 なものに か放とせ

Ξ

るからだ。携帯電話に支配されてはいけく無関心になり、自分のことしか考えなれ、自分が置かれている状況などにはまると考える。なぜなら、携帯電話に心をこれについて、私もその状況には問題 けない。 に まった た まった た

間関係 言いにくいことで 体性が求められる。ほ を生が求められる。ほ を使う側の を使う側の 例 関 私係 M それを使う側の L 松もそう考える。 # 係を築いていくもの 男さんは、携帯電 もあるはずだ。そうやって私くいことでも言葉にしなけれ 相手と直接向き合って、携帯電話はあくまでものではないと言ってものではないと言ってものではないと言って の 接向き合って、 私たちは人ればならな

D 石 田 さんのように、 M 子 さ Ь に 反対の 立 場 の 意見文でもよ 11